

TCU Quarterly

— 都市大だより —

2019.JUN.

No.212

2019年6月21日発行

東京都市大学 企画・広報室

東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104 <http://www.tcu.ac.jp>

特集

創立90周年記念 連載企画：都市大ヒストリー

第4回 時代の変化に合わせて改革し続ける大学

CONTENTS

- 02 特集1 創立90周年記念 連載企画：第4回 都市大ヒストリー
- 04 特集2 国際学生寮 開設
- 06 入試結果
- 09 学部・学科改編
- 10 東京都市大学 留学プログラム
- 11 第1回 都市大研究プレゼンコンテスト
- 12 平成31年度 入学式
- 13 人事発令
- 16 永年勤続者表彰／博士学位(取得)
- 18 新任教員紹介
- 20 平成30年度 学位記授与／学位授与式式辞
- 23 卒業生数・修了者数／2018年度 受賞者一覧
- 25 平成31年度 入学式式辞
- 30 最終講義
- 32 研究紹介
- 33 PERSON／BOOKS
- 34 NEWSラウンジ／夢キャン通信
- 36 Information
(都市大エコ1チャレンジカップ2019／
2020年度入試情報／オープンキャンパス日程／
WEEKDAY CAMPUS VISIT日程)



第4回 進化する都市大の教育・研究《2》

時代の変化に合わせて 改革し続ける大学

創立90周年記念 連載企画の第4回は、本学の1980年代から2000年代の歴史を振り返ります。国際交流や教育・研究、就職支援など本学の歴史を象徴する出来事をご紹介します。

▶1980年代

国際交流の開花

本学の国際交流の歴史は古く、創立間もない1932年頃からアジア諸国の留学生を受け入れています。1983年、中曽根首相(当時)による「留学生受け入れ10万人計画」を機に、「国際交流はこれからの学生に必要不可欠」として国際社会で通用する学生を育成するため、1986年よりオレゴン工科大学(アメリカ)、北京建築工程学院(中国)等の海外の大学と協定を締結し、教育・研究や教員・学生の交流などを推進してきました。また、1997年には国際交流課を設置するなど、留学生へのサポートにも力を入れてきました。

現在では「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」や「カンタベリー大学留学プログラム(TUCP)」など独自の留学プログラムに加え、海外インターンシップを実施しているほか、海外の有力大学と「アジア・大洋州5大学連合(AOFUA)」を設立し、グローバルリーダー育成の取り組みを本格的にスタートするなど、本学の国際化は大きな進化を遂げています。また、1932年ごろは2名程度であった留学生も2019年5月現在では学部・大学院を合わせて129名、海外協定校は27校となりました。



1991年、オレゴン工科大学への夏期語学研修。

▶1990年代後半

環境情報学部を開設、 日本の大学として初の環境ISO14001を取得

本学を運営する学校法人五島育英会では、開学当初から、工学部だけの単科大学であった武蔵工業大学を、複数の学部を備える総合大学へ発展させることを目指していました。1990年代に入ると少子化社会の定着、4年制大学への進学率上昇、国際交流の発展など大学を取り巻く環境は大きく変化していきました。そのような時代背景の中で、社会から求められる人材を育成するため、文系・理系の枠を超えた新しい社会科学系の学部として、1997年、横浜市都筑区に環境情報学部^{*}(横浜キャンパス)を開設しました。

同学部は先端技術を駆使した環境にやさしいキャンパス作りなどが学内外で高く評価され、1998年、日本の大学として初めて国際環境規格ISO14001の認証を受けています。

2001年には、大学院環境情報学研究科修士課程環境情報学専攻を設置し、2005年には同博士後期課程を開設しています。

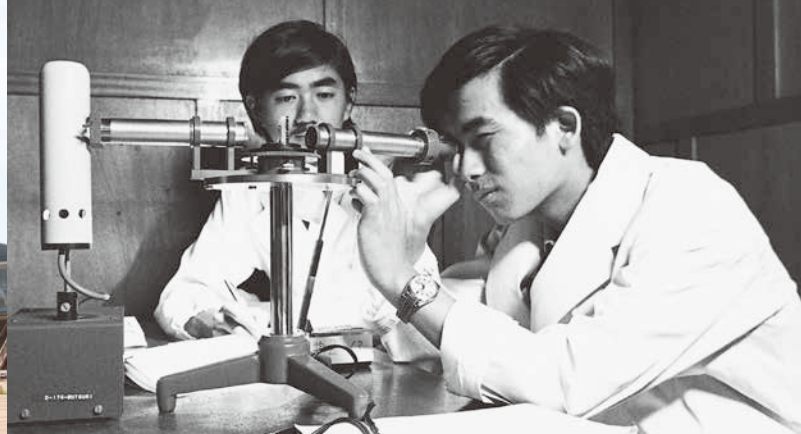
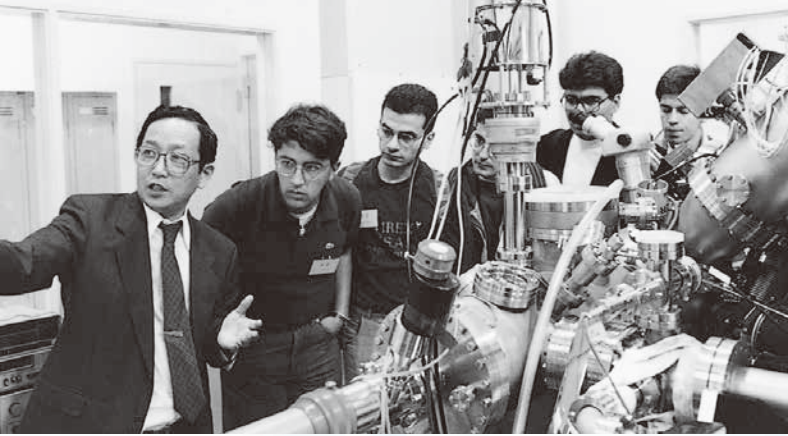
※環境情報学部：2013年に改組し、環境学部とメディア情報学部を設置。



1997年、横浜キャンパス竣工披露会。



環境にやさしく、自然との共生を実感できるビオトープ。(横浜キャンパス)



▶ 2000年代

総合研究所を開設、研究成果を社会へ還元

本学の理念である「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を実現すべく、2004年、等々力キャンパスに「総合研究所」を開所しました。

同所では、研究成果を社会へ還元することで国民生活の向上に寄与するとともに、学生の高度の教育を主目的とした研究活動のサポートを行っています。

開所当時は、シリコンナノ科学研究センター、エネルギー環境科学研究センター、共同研究支援の3組織でしたが、現在は5組織へと研究領域を拡大するとともに、2018年より世田谷キャンパスの6号館にも研究拠点を構えるなど、大きな進化を遂げています。

近年では、未来都市研究機構による、「都市研究の都市大」をテーマとした、都市が抱えるインフラや環境、ヘルスケア、生活などの問題を解決し、持続可能で魅力的な成熟都市を形成するための、全学的な学術的研究を進めています。

そして東京都市大学へ

時代の要請に応える教育と研究を推進するため、2009年に武蔵工業大学と東横学園女子短期大学は統合し、東京都市大学へと改称。これにより、大学の規模と学術領域が拡大し、学際的な教育・研究活動が可能となるとともに、課外活動もバラエティーが増え、学生同士の交流の輪が広がりました。本年創立90周年を迎える本学は、今後も時代の変化に合わせて改革を続けてまいります。

▶ 次号No.213(10月発行)は、最終回 学長インタビュー「創立100周年に向けて(仮)」を予定しています。

1	2
3	4

- ① 1991年、イタリアのピサ大学大学院生が本学半導体特別研究室を見学。
- ② 総合研究所(世田谷区・等々力)
- ③ 横浜キャンパス(横浜市・都筑区)
- ④ 研究風景

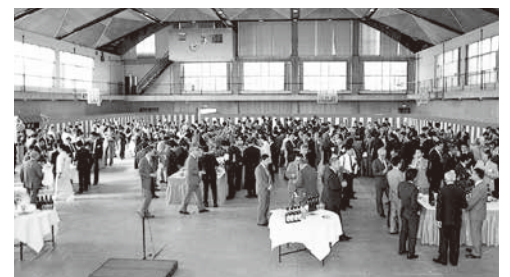
【Column】

就職支援「学内企業研究会」のルーツ

本学では毎年、約500社の企業の人事担当者や卒業生を招き、本学学生のためだけに行う「企業研究会」を開催しています。

このルーツは、1980年に開催された「武蔵工業大学をご覧いただく会」にあり、初回の6月には卒業生の就職先である企業の採用担当者(238社、259名)を招待しました。会場内の就職相談コーナーでは本学の就職担当教員の前に各企業担当者の長い列ができたそうです。

また、1989年の「週刊ダイヤモンド」(ダイヤモンド社)で紹介された企業の部・課長の出身校ランキング一覧では、全国の単科大学としては3位(私立では堂々トップ)に輝きました。2010年には、文部科学省のキャリア支援関連事業に採択されるなど、現在でも「就職に強い都市大」として社会で高く評価されています。



1980年、企業採用担当者を招待し「武蔵工業大学をご覧いただく会」を開催。